

# 博物館 Dictionary No.232

～あなたに語る・時代を超えて生きる心～

てんじ 展示中の作品について、研究員がわかりやすくかいせつ 解説します。

## なわめ 縄目に注目してみると

### じょうもんじだい 縄文時代や縄文土器の「縄文」って？

じょうもんじだい 縄文時代は、今から約 16,000 年前から 2,400 年前まで続いた時代のことを

指します。そのころ、日本列島に住んでいた人々は、土器を作って煮炊きをし、木の実を主食に、弓矢や漁具、石器を使って狩りをしたり魚や貝をとったりしていました。このような縄文時代の生活を縄文文化と呼び、この時代に作られて

いた土器を縄文土器と呼んでいます。縄文時代、縄文文化、縄文土器…、これらに出てくる「縄文」は何を指すのでしょうか。「縄文」とは、土器につけられた縄目文様のことを指します。この時代の土器には縄目があることが多いので、時代や文化を表す名前にもなりました。土器に縄文をつける例は草創期の後半にはすでにみられ、なくなったり、ふるわぬ時期や地域があったりするものの、縄文時代全時期を通して日本列島全体でみられます。このことから、縄文人にとって縄文は、大切な意味があったものと思われる。

### 時代とともに移り変わる縄文

縄文土器の縄文は、土器の表面に縄を転がしたり、押し付けたりして文様がつけられています。縄文があることで、土器の表面に凸凹とした立体感が現れ、シンプルですが独特の魅力が生まれます。縄文には、地域や時代によってさまざまな種類があります。

ここでは京都国立博物館所蔵の縄文土器を縄文に注目しながら観察してみましょう。

前期の深鉢（図1）は、ずん胴の形が特徴です。全面に縄文があり、まさに縄文が主役の土器です。胴の部分は複数の棒に縄を絡めた複雑な道具を転がして文様をつけています。ふちの部分は縄を押し付けて文様にしてあります。前期はさまざまな縄文のより方が生み出された時期です。

一方、当館の縄文土器のなかでもひとときわ目を惹く、大きな突起がついた深鉢には縄文がありません（図2）。この土器は中期に新潟県を中心に分布する火炎土器の一種です。

### 縄文時代

年代に関しては研究者によってさまざまな意見があります。



図2 深鉢

出土地不明  
縄文時代中期  
(柘倉式)  
京都国立博物館蔵



図1 深鉢  
青森県八戸市南郷出土  
縄文時代前期  
(円筒下層式)  
京都国立博物館蔵

縄文土器といえば、力強く生き生きとした造形の火炎土器<sup>かえんどき</sup>を  
 思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。しかし、火炎土器<sup>かえんどき</sup>  
 には縄文はほとんどなく、その代わりに粘土紐<sup>ねんどひも</sup>を貼り付けたような  
 立体感のある線で渦巻文<sup>うずまきもん</sup>などの文様<sup>もんよう</sup>を描いています。

同じ中期でも図3の深鉢<sup>ふかばち</sup>には縄文がついています。このような土器  
 は関東地方を中心に分布します。よく見ると縄文がある部分とない  
 部分がありますね。これは縄文をつけた後に文様を描き、そのあとに  
 一部の縄文を磨<sup>す</sup>り消しているからです。このような文様のつけ方を  
 磨消縄文手法<sup>すりけしじょうもんしゆほう</sup>と呼びます。縄文のある部分とない部分があるために、  
 かえって縄文が強調され、すっきりとした美しさがあります。

後期以降も磨消縄文手法は多く用いられます。図4は後期  
 後半に東北地方北部でみられる注口土器<sup>ちゆうこうどき</sup>です。急須<sup>きゆうす</sup>のような  
 注ぎ口<sup>そそ</sup>がついていて、お酒など液体を入れていました。縄文  
 は中期のものより細くなり、縄文のない部分は丁寧<sup>ていねい</sup>に表面  
 が磨<sup>みが</sup>かれ、光沢<sup>こうたく</sup>をもっています。そのため、縄文のある部分と  
 ない部分の対比がいつそうはっきりとして、整った印象をもちます。

また縄文がいろいろな方向に転がされているのがわかりますか。  
 これは、先に文様を描いたあとに文様に沿って縄文をつけている  
 ためです。同じ手法は、晩期の縄文土器にも多く見ることができます。

このように長い時間のなかで縄文土器の縄文もめまぐるしく変化しています。大胆  
 な造形や文様は縄文土器の大きな魅力<sup>みりょく</sup>ですが、ときには縄目から縄文人のこだわりを  
 感じ取ってみるのも楽しいものです。



図3 深鉢<sup>ふかばち</sup>

東京都東久留米市出土  
 縄文時代中期（加曾利E式）  
 京都国立博物館蔵



図4 注口土器<sup>ちゆうこうどき</sup>

伝青森県出土  
 縄文時代後期（瘤付土器）  
 京都国立博物館蔵

## お家でチャレンジ!

### 縄文原体の作り方

土器に文様をつける縄を  
 縄文原体（じょうもんげんたい）といいます

ティッシュを  
 巻いたもので  
 作れます



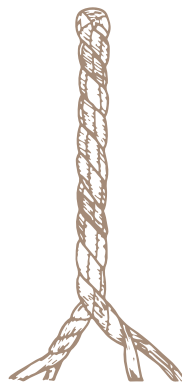
1

せいのたばの  
 両はしを持ち、  
 ねじりながらよる。



2

①にきつくよりをかけ  
 続けると、2つにおれ  
 まがって、おたがいが  
 からみあう。



3

さらによりをかけて、②と  
 同じように2つにおれまが  
 るまできつくよりをかける  
 と、できあがり！  
 これが基本の縄文原体（じょう  
 もんげんたい）です。ねんどの  
 上で転がすと、縄文土器  
 と同じ縄目文様（なわめもよう）  
 がつきますよ。

（考古室 石田由紀子<sup>いしだ ゆきこ</sup>）